

齋藤豪准教授（工学部・大学院自然科学研究科）が第15回コンクリート構造物の補修，補強，アップグレードシンポジウムにおいて，最優秀論文賞を受賞されました

大学院自然科学研究科（工学部）の齋藤豪准教授が，平成27年10月16日～17日に京都テルサ（京都市南区）にて開催された，公益社団法人日本材料学会主催「第15回コンクリート構造物の補修，補強，アップグレードシンポジウム」において，最優秀論文賞を受賞しました。

この研究は，27年間海洋環境に曝露されたコンクリートの圧縮強度，中性化深さ，電気抵抗率，および塩化物イオン濃度分布を実験的に検討しています。また，電気抵抗率から推計された塩化物イオン拡散係数および塩化物イオンの浸透状況から算出された見掛けの拡散係数を用い，これらの拡散係数に与える練混ぜ水の影響を整理しています。その結果，海洋環境に長期間曝露された海水練りコンクリートの上記物性について水道水練りコンクリートと比較すると，練混ぜ水に海水を用いることによる物性への影響は小さいことなどを報告しています。



図：表彰状